



ことりとり

ことりのさえずりにみみをふさいでいたら、ことりはあたまをかるくついばんできました。ことりはいっぽんいっぽんくろいけをぬいて行って、とうとうあたまをぜんぶたべてしまいました。ことりはうたいます。さえずります。そしてまただれかのあたまをたべにいきます。ことりはふんをします。ちしきとじょうねつとゆめときぼうと、すこしのぜつぼうがはいった、きらきらした、ふん。

いちねんご、あるちいきにはくびからさきがなにもないものしかいなくなっていました。さわってもさわっても、なにもないのです。こんらんしたものたちは、わけがわからなくなって、くるったようにおどりだし、きづつけあい、うたい、なきました。そしてさいごにめいあんをおもいつきました。

きらきらしたことりのふんを、あつめてかためてじぶんのあたまにしたのです。かおのぶぶんはみんないっしょ。みんなわらっていればしあわせだから、えがおにしようと。

みんながみんな、きらきらしたあたまと、まんめんのえみにたもたれたそのせかいは、しあわせなはずでした。いたみもなやみもなにもない。でもそのかわり、よろこびもよろこびにおもえない、わらっていてもなににわらっているかわからない、そんなせかい。すぐにあきてしまったものたちは、またわけがわからなくなって、くるったようにおどりだし、きづつけあい、うたい、なきました。

きらきらしたあたま　そこからでるなみだ　きらきらとなみだがかさなって、そのものたちのちいきには、きづけばにじがたくさんかかっていた。しかしどんなかおをしたらいいかわからなくなったものたちは、そのままなきつづけました。

ないて・ないて・ないて。いつのまにかそのせかいには、したをむいてなくひとしかいなくなっていました。なみだはかれ、にじはきえ、そのものたちのせかいはまっくらになってしまいました。きらきらだったあたまも、なみだでよごしてしまいました。あんなにあったふんも、いまはもうありません。

なにもありません、みんなおなじです。なにもかんじません、みんなしたをむいています。ことりが、すべてたべてしまったから。みんなすべて、おなじになってしまったから。ことりはそのせかいをみたあと、きれいなこえでさえずりながら、とびさっていきました。つぎのせかいをさがして。おしまい。